

# 組合だより

発行所  
**岡山大学職員組合**  
〒700-8530 岡山市津島中2-1-1  
電話 086-252-1111 (代)  
(内線) 7168  
直通・FAX 086-252-4148

岡山大学職員組合ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/> メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp)

## 法人化後の岡山大学はどうなる？

1月31日 小畑委員長(理学部単組・岡大職組共催講演会)

岡山大学の法人化戦略会議は、去る1月27日「岡山大学の国立大学法人化について」(中間まとめ)を発表しました。これを受けて、小畑委員長は、参加型の大学づくりを旨とする観点から教職員の意思決定と研究教育両面での参加と学長コントロールについて報告しました。以下その要点を紹介いたします。

### 「中間まとめ」の意思決定システム

「中間まとめ」は大学の意思決定のあり方を根本的に転換させるものです。管理運営と教育研究が大きく二つに分けられ、管理運営は経営協議会が、教育研究は、評議会が担当するものとされています。経営協議会は、副学長・学内委員と同数の学外委員からなるものとされています。この協議会は、特定の重要事項を除いて、問題を処理し学長が最終決定します。教育研究事項については、学内の教学関連問題の代表者からなる評議会が担当します。この評議会が、特定重要事項を除いて、問題を処理し学長が最終決定する点は、経営協議会と全く同じです。

そして特定重要事項(たとえば中期目標・計画など)については評議会や経営協議会での「審議」を経て役員

会の「議決」の後、学長が最終「決定」するというもので、いずれにしても学長と役員会が大きな権限を持つこととなります。

その中で重要な役割を果たすのが役員会を構成する副学長の直屬機関として政策策定に携わる「総合企画」「教育学」「学術研究」「情報」「医療・病院」「人事管理」「財務会計」の7つの担当部門(現・常置委員会に相当?)です。「中間まとめ」では、それぞれの担当副学長の下に「事務組織」が直屬する形で図示されています。しかし、「まとめ」は全体として教職員の参加の道筋が不明確です。

### 参加の観点からみた問題点

法人化後の大学では、目標や計画に即して個人のレベル、プロジェクトレベル、部局レベルでの教育・研究・管理運営の自己点検が全体の意思決定に正

確に反映するかどうか

が決定的に重要です。それ故、「中間まとめ」の意思決定システムが有効に機能するためには、教職員一人ひとりが、教育・研究の各プロジェクトが、そしてそれぞれの部局が、自由な立場で教育・研究・運営の現場から政策立案にフランクに提言できる制度的な保証と政策立案過程の透明性の確保が絶対に必要です。徹底した情報公開が求められることとなります。そうした自由でオープンな大学づくりができるかどうかは、大学活性化の要になるものと思われれます。「中間まとめ」ではこうした議論がまだまだ弱

### 強大な学長権限

これまで見てきたところ、明らかなように、法人化後の大学では学長の「決定」権限がきわめて強大です。それと正比例して学長の責任もきわめて大き

### 座標軸

工業社会から知識社会への転換が説かれていた。工業社会とは、第二次産業革命の結果成立するあのコンベアシステムに象徴される大量生産大量消費の社会である。それは、人間労働を機械に分断従属させる人間喪失の社会であると同時に、緑の森林を消滅させ、大気汚染をまき散らす自然破壊の社会である。この社会に対置されるのが、知識社会である。知識社会とは、まだあまりポピュラーではないかもしれない。それは第三次産業革命を前提とした社会である。第三次とは、第一次が農業から工業へ、第二次が重化学工業への転換であったのに対して、人間の運動系統に

関わる構造物の生産から神経系統に關わる構造物の生産への転換であるといわれる。人間の神経系統の器官の機能に代わる構造物とは、IT革命に象徴されるコンピュータを考えば一番手取り早い。なんだコンピュータかと思ってしまう。いや、コンピュータは、単なる情報伝達の手段でしかない。しかし、それが独立の構造物となったことにより、切り開かれた可

能性には、人間喪失の社会を人間回復の社会へ復活蘇生させる可能性も孕まれている、というのである。スウェーデンでは、「知識社会」を目指す産業構造の転換が精力的に取り組まれている。知識社会とは、情報を動かし、人や物の動きを減らす社会である。在宅勤務、インターネットによる在宅購入をはじめとして、無政府的な市場目当ての大量生産から注文生産への転換が実現される。それ一つ一つでも、果てしないサイプレス合戦が産み落とす無駄や混乱、限らない人間的なものの消耗から、解放されそうなる予感がある。むしろこうした転換は、自然発生的には起こらない。政府の手による積極的な政策展開が必要である。スウェーデンでの試みを一瞥してみよう。地域のポトムアップのための地域経済の開発と地域民主主義の活性化。人間的なものの育成と発達のための無償義務教育(10年)。職業教育のための成人教育(無償)など。そのほか活発な非営利活動や行き届いた社会保障制度など人間回復のための豊富な試みがある。それらは、人間喪失社会から人間回復社会への視点を欠いた構造改革の不毛を強く物語っている。(い)

# キャンパス・セクハラ防止のために

## SANIO講演会 お茶大戒能先生をお招きして

去る1月29日、文化科学研究棟でお話を聞きました。参加者は、非常に熱心に耳を傾けていました。お話のポイントをいくつかご紹介します。

### セクハラ概念再規定の必要 深刻な二次被害

セクハラといえば、ふつう性的嫌がらせだと考えられています。むろんそれはそうなのですが、問題の深刻さは、それが二次被害を産み落とすということです。

無視されたり、見えて見ぬふりをされたりします。

セクハラというとき、こうした深刻な二次被害まで視野に入れる必要があると、戒能先生は強調されます。

### 密室としての大学

加害者からの謝罪もなければ、加害者に対する大学当局の処分はいい加減のものであつたり、適切な解決方法が提示されないまま放置されることも少なくありません。

大学が教育の場であることはもちろんですが、指導被指導という関係の中に、セクハラ契機が孕まれていることにも、戒能先生は注意を喚起されます。指導被指導というのは、やはり、一面で権力的な関係性を孕んでいます。



戒能民江先生

(お茶の水女子大学 生活科学部教授教授)

キャンパス・セクシュアル・ハラメント全国ネットワーク事務局代表

の個別指導や、研究室の閉鎖的な指導体制は、セクハラを生みやすい温床です。

大学が、そうした閉鎖性や権力を有することについて、大学人や、この問題に関わる法曹界などに、根強い偏見や認識不足があることを戒能先生は指摘されます。

「来ないんですよね」とは、この問題の研究會などを聞いた際、一番来る必要のありそうな教官にかぎって、参加しないことについて、戒能先生の慨嘆です。「虚しくなるとさえいわれます。」

### 運動の広がり

しかし、やはり、泣き寝入りするのでなく、問題としてくる被害者が確実に増えていること、大学の中からも、ぼつぼつですがいろいろな取り組みや努力がなされるようになってきたことも、戒能先生は指摘されます。

### 学外とも提携して

しかしこの運動には、研修会を開こうと

しても、研修者たるべき人材さえも存在しない、といった初歩的問題があります。また、膝の上で座らされてもおかしいといったセンスさえあります。

大学だけでは、どういこの困難で複雑な問題の処置をすることが出来ません。学外機関との連携、協力の重要性を指摘し、国にも積極的に働きかけ、「キャンパス・セクシャルハラメント・全国ネットワーク」を作っていくという提言で、戒能先生はこの講演を締めくくられました。

### 散歩道

歯の保存手術をしたあと、やや出血があり、その夜の飲酒と入浴について、控えた方が良く注意を受けた。麻酔がまだ効いていて、あまり気分は良くない。身体の奥に聞いてみると、酒に対するかすかな嫌悪感もある。

その嫌悪感を頼りにその夜は酒を断った。眠れないのではないかと心配したが、そんなこともなかった。次の日の夕方、身体の奥の方にかすかな酩酊への嫌悪感がまだある。むろん出血はとづくに止まっていたが、その日も結局アルコールを口にせずには眠った。そんなふうにして、何日かが過ぎた。

### 単組短信

法文経 1月2月に文化教養講座を開催した。定年教官の講演会や懇談会を開催する予定。

理学部 1月31日小畑委員長による講演会開催。講演会終了後、交流会開催。

教育 単組機関誌「マスカット」発行。

農 1月28日執行委員会開催。農学部で若手教官との懇談会で、個人評価用に出した書類がどのようになっているかについて問題が話題とされた。

医 定員外問題が、依然として問題。

禁断症状めいた飲酒欲が襲ってくるということはなかった。それまで酒を飲み始める習慣であつた夕方頃、自分で自分の身体に問うてみる。すると、酒や酩酊感への嫌悪感が、身体の中から返ってくる。そんな状態がしばらく続いた。その結果、断酒状態が続いた。

やがて酒酔いへの嫌悪感は薄らいでいったが、アルコールへの渴望もなかった。それで、酒を断った状態がすでに数週間を超えた。そして、深い快い眠りが戻ってきていた。身体も清浄潔白になつた感じがある。ビール太りではばんばんに張っていた下腹部が緩んできた。

### 冬の夜

ただ、私はこれでこの後一切酒を断とうとまで思い詰めているわけではない。禁酒の先輩である小畑委員長は、一口でも飲んだら、すぐ飲酒の習慣は戻ってくるかと忠告する。多分そうだろうと思う。しかし、適量の酒を嗜むという酒とのつきあい方への願望もにわかには捨てがたい。庭になつた大きなカリンの実を手にしながら、今年も、カリン酒を漬けたものかどつか、今私は迷っている。